

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	情報科学Ⅱ	担当講師	星 雅丈
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい 現代の医療における情報について知り、医療情報の管理、活用方法を理解する。また、ICT を活用したコミュニケーションを理解し、看護実践に活かす方法を学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
6	1. 医療における情報について理解できる	1) 保健医療における情報	(1) 保健医療と情報 ①医療における情報 ②エビデンス情報に基づいた保健医療 ③ヘルスプロモーションと情報 (2)看護と情報 ①看護における情報 ②情報社会と看護 (3)医療における情報システム ①医療における情報の記録 ②病院情報システムと記録の仕方 ③地域医療福祉のネットワークと情報システム	講義	
8	2. 医療における情報倫理について理解でき、管理方法がわかる	2) 情報と倫理	(1) 情報倫理と医療 (2) 患者の権利と情報 ①患者の権利と自己決定への支援 ②診療情報の開示 (3)個人情報の保護 ①医療・看護における個人情報 ②情報の利用の仕方	講義 PC 演習	
	3. ICT を活用したコミュニケーションを理解し看護実践に活かす方法がわかる	3) 情報処理	(1)質問紙調査によるデータ収集 ① 調査とそのプロセス ② 調査の計画・準備 ③ 調査の実施とデータ収集 ④ データ分析の準備 (2)文字情報の整理 (3)情報の発表とコミュニケーション	演習	
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院				
参考文献	田久浩志・岩本晋著 実力養成 Word&Excel 改訂版ーらくらくレポート作成・データ集計 羊土社				
評価方法	筆記試験 実技試験				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	心理学Ⅱ	担当講師	佐藤 浩
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい					
心理学Ⅰで学んだ、人間の心あるいは精神といわれる側面を理解するための基礎知識を活用しながら、心に問題を持った人に対するアプローチと、心の病を予防し、より健やかで生きがいのある人生を送るための対人援助のための基盤となる知識を学ぶ科目である。					
また、心理アセスメントといわれる臨床心理学的な人間理解と、カウンセリングおよび心理療法による臨床心理学的援助法も併せて学ぶことをねらいとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1.ストレスの定義・ ストレス発生のメ カニズム・ストレ スへの対処行動に ついて理解する	1) ストレスと適応	(1) ストレスとコーピング ①ストレスとは ②セリエのストレス理論 ③心理社会的ストレス ④ストレス対処 ⑤ストレス反応の個人差 (タイプ A・タイプ C 行動パター ン)	講義 演習	
4	2.主観的統制感と健 康の関連を理解す る	2) 学習性無気力・ 自己効力感・統制	(2) 学習性無気力 ①スチューデントアパシー ②ピーターパンシンドローム ③不登校・出社拒否 (3) 自己効力感 ①結果期待と効力期待 ②コンプライアンス行動と自己効 力感 ③痛みと自己効力感 (4) 統制の所在 ①内的統制と外的統制 ②健康についての統制の所在 ③主観的統制感の看護への応用	講義 演習	
2	3.援助のための対象 理解の方法を理解 する	3) 心理アセスメン ト	(5) 心理アセスメントの種類 ①面接法 ②観察法 ③検査法	講義 演習	
6	4. カウンセリング と心理療法の基本 的な考え方を理解 する	4) カウンセリング 5) 心理療法	(6) カウンセリング ①カウンセリングの定義 ②カウンセリングの目的・方法 ③カウンセラーの態度 (7) 精神分析療法 ①フロイトの精神分析理論 ②カタルシス（浄化）法 ③自由連想法 ④抵抗分析と転移分析 (8) クライエント中心療法 ①ロジャーズのクライエント中 心療法 ②自己一致 ③積極的傾聴 ④自己一致 (9)行動療法 ①行動療法とは ②SST（生活技能訓練）	講義 演習	

1	試験		③認知行動療法 ④系統的脱感作法 (10)集団心理（精神）療法 ①グループ・アプローチの機能・効果 ②集団心理療法の方法 (11)家族療法 ①システムとしての家族 ②家族療法の方法	
テキスト	長田久雄編集 看護学生のための心理学 第2版 医学書院			
参考文献	系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	哲 学	担当講師	若杉 直人
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい					
看護を専門職とすると、「看護とは何か」という問いをつねに各自で深めていくことが求められる。この問いの根本は、看護する者も看護される者も同じ人間であり、その人間は心と体を備えた限りある生命であるという認識である。哲学は、人間に対する根本的な認識から看護を考えるための学問であり、本科目では、人間のあり方、生病老死や人間の基本的な価値観についての哲学的な考え方を学び、深い洞察力を持って看護に臨めるようになるための基礎を身につけることをねらいとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 看護における哲学的テーマについて考える	1)現代の医療・看護と哲学のつながり 2)思索することと看護	(1)人間に向きあう医療・看護 ・現代社会の不安・病理と医療 (2)看護の本質を哲学的に捉える ・哲学と看護における「みること」 ・人間らしさを追求する	講義	
6	2. 哲学の歴史を学び、人間存在について理解する	1)西洋哲学における人間理解	(1) 古代、中世、近現代の哲学 ・人間の基本的価値観としての古代ギリシャの「真・善・美」 ・中世キリスト教の「人間の尊厳」 ・近現代社会における人間の本質への問い	講義	
4	3. 人間における死の問題とターミナルケアについて理解する	1)人間は死すべき存在である	(1)死に向き合うことの意味 ・死を運命づけられた人間の生き方について (2) より深く思索すること ・他者の痛みを理解するということについて	講義 グループワーク	
2	4. 人間集団におけるコミュニケーションについて理解する	1) 他者との関わりあい	(1)責任を負うということ ・他人の呼びかけに対する応答	講義	
1	試験				
テキスト	田畑邦治・田中美恵子編集 哲学－看護と人間に向かう哲学 ノーヴェルヒロカワ社				
参考文献	授業時に適宜プリント配布				
評価方法	筆記試験 100 点				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	生活の中の芸術	担当講師	永澤 仁 神谷 勝 椿野浩二 卯野敦子 松田一戯 寺内卓己 濟 葆子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい					
芸術文化は地域性と密接な関係を持っている。但馬地域で永い時間をかけて創られてきた芸術に親しむことで、地域を知ることにつながり、さらには地域に住まう患者・療養者・家族の生活に思いをはせ、年代を超えた交流につながるものとする。また、芸術作品を鑑賞し、味わい、作品に込められた思いを知ること、人としての豊かな感性を育むことをねらいとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容		指導方法
1 作品につき2時間（7回）	1. 美術工芸品を鑑賞し、作品がもつ「美」を味わうことができる	美術工芸品・書・音楽の「美」 1) 伝統陶芸の「美」 2) 自然なものが創り出す「美」 3) 金属とクリスタルと火が創り出す「美」	1－講話と鑑賞 (1) 出石焼の鑑賞 (2) 絵画の鑑賞 (3) 七宝焼きの鑑賞と体験		講話 一部演習 講和・演習 講和・演習
	2. 楽器の音色や奏法、曲想の変化、などを楽しみながら、音楽の多様性を理解する	1) 楽器の表現・歌唱を楽しむ	2－講和と演奏 (1) マリンバ演奏を楽しむ		講和・演習
	3. 地域の風土・歴史・文化などを背景に暮らしの中から生まれた芸術を理解する	1) 地元伝統工芸－麦わら細工 2) 引き継がれている伝統文化 3) 但馬地域の風土・歴史・文化と暮らし	3－講和と体験、鑑賞 但馬地域の風土と歴史 (1) 麦わら細工の鑑賞 (2) 杞柳細工の鑑賞 (3) 木彫の鑑賞		講和・演習 講和・演習 講和・演習
	1	レポート			
テキスト	授業ごとに講師が準備する				
参考文献					
評価方法	出席状況、レポート				

授 業 概 要

分 野	基礎分野	科目名	運動と健康	担当講師	西村 正広
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい 「人間と生活、社会を理解」する科目として本科目を設定した。 健康の担い手として自らの健康管理ができるように生活活動と健康の成り立ちを学び、さらに健康の保持・増進に向けた取り組みに対応できるようにリーダー的役割が果たせるよう基本的な知識・方法を学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 現代における健康障害要因と健康意識の高まりが理解できる。	1) 健康の概念と運動	(1) 現代社会における健康意識 (2) 現代社会と運動不足病 (3) 生活習慣と運動	講義	
2	2. 運動の効用が理解できる。	2) 運動の効用	(1) 体力と運動機能に対する効果 (2) 予防医学上の効果	講義	
4	3. 運動処方の原理が理解できる	3) 運動処方の原理	(1) 運動処方とは (2) 運動負荷検査までの手順の実際 (3) 運動処方の手順 (4) 検査結果による個別指導の実際 (5) 高齢者の体力特性	講義 演習	
4	4. 運動プログラムの組み立ての原則が理解できる	4) 運動プログラムの組み立て	(1) 必要運動量とその算定 (2) 運動量の算定 (3) 運動強度の表し方 (4) 運動中のエネルギー産生とエアロビクス (5) 運動種目の選び方 (6) 運動プログラムの作り方	講義 演習	
2	5. 自分の健康について振り返り、健康生活に向けた課題が明らかになる	5) 生活処方とウェルネス	(1) ライフスタイルの点検 (2) 生活習慣病とウェルネス (3) 高齢者のウェルネス		
1	試験				
テキスト	講師資料				
参考文献	健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023（厚生労働省） アクティブガイド - 健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023（成人版・高齢者版・こども版）				
評価方法	筆記試験・レポート				